

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

研究 0-1

1. 教育学部・教育学研究科

研究 1-1

北海道教育大学

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
教育学部・教育学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している

教育学部・教育学研究科

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- へき地・小規模校教育、食育、環境教育、特別支援教育等の地域の教育的課題に即した研究を推進している。
- 愛知教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学との連携により実施しているHATOプロジェクトでは「複式学級における学習指導の手引」の改訂等の取組を行っている。
- 教育研究交流・国際会議の推進のため、海外の大学と連携し、「教育に関する環太平洋国際会議」を開催している。
- 科学研究費助成事業の新規採択件数は平成23年度の27件から平成27年度の36件となっている。

以上の状況等及び教育学部・教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特にスポーツ科学の細目において卓越した研究成果がある。また、外国語教育の細目では、書き手と読み手の立場から第2言語学習者のピアレビューの効果を考察し、全国英語教育学会誌の学術奨励賞を受賞している。
- 卓越した研究業績として、スポーツ科学の「血流制限を伴う低強度レジスタンス運動の効果を導く生理学的機序に関する研究」があり、血流制限を伴う低強度レジスタンス運動の効果を導く生理学的メカニズムを明らかにしている。
- 社会、経済、文化面では、特に芸術一般の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、芸術一般の「新鮮な音響や独自の構成を目指して作曲した作品の発表と整理」があり、発表したCDが平成24年に第50回日本レコードアカデミー賞（現代音楽部門）を受賞している。

以上の状況等及び教育学部・教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、教育学部・教育学研究科の専任教員数は 421 名、提出された研究業績数は 75 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 59 件（延べ 118 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 7 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 41 件（延べ 82 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 7 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- HATOプロジェクトでは、へき地・小規模校教育に関する調査研究等の実践的研究及び学際的研究に取り組んでいる。
- 平成 22 年度から研究支援コーディネーターを配置し、各種研究助成金獲得のための支援を行っており、科学研究費助成事業の新規採択件数は平成 23 年度の 27 件から平成 27 年度の 36 件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「新鮮な音響や独自の構成を目指して作曲した作品の発表と整理」では、発表した CD が平成 24 年に第 50 回日本レコードアカデミー賞（現代音楽部門）を受賞している。
- HATOプロジェクトでは「教師教育における演劇的手法によるコミュニケーション教育」に関する研究に取り組んでおり、コミュニケーションを実践という視点から捉え直し、活動での経験を継続的に省察する学びのスタイルを構築している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。